

第46回岡山戦災の記録と写真展

証言からたどる戦争と空襲



私たちは、たしかに生きていた

「疎開先を知らせる札とともに自宅の焼け跡に立つ男性」(北区駅前町) 1945年 緑川洋一撮影 緑川洋一記念室所蔵 山陽新聞社協力



「疎開先を知らせる札とともに自宅の焼け跡に立つ女性」(場所不明) 1945年 緑川洋一撮影 緑川洋一記念室所蔵 山陽新聞社協力

2023年6月9日(金)～6月30日(金)

会場：岡山シティミュージアム4階企画展示室

開館：10時～18時 ※入館は17時30分まで

休館日：月曜日

主催 岡山市 共催 岡山市教育委員会 後援 岡山県教育委員会 協力 岡山市立中央図書館

入場
無料

第46回岡山戦災の記録と写真展 証言からたどる戦争と空襲

2023年6月9日(金)～6月30日(金) 休館日：月曜日 開館時間：10時～18時 ※入館は17時30分まで

1945年6月29日、岡山のまちはアメリカ軍の爆撃機B-29による空襲を受けました。

この空襲で、当時の市街地の63%が焼け野原となり、多くの人々が傷つき亡くなりました。アメリカ軍による空襲は日本の各地におよび、広島と長崎への原爆投下も含めて66の都市が大きな被害を受けました。

しかし、終戦から77年以上もの年月が経つうちに当時の様子を知る人も減り、戦争や空襲に関する記憶と実感はうすれつつあります。

岡山市では、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代につないでいくため、2005年から空襲体験者への聞き取り調査を始めました。現在までに約340名の方から証言を寄せていただいています。

今回の展覧会では、それらの証言を改めて掘り起こし、戦時下の社会と生活の変化を物語る資料とあわせてご紹介します。彼らが体験した空襲はどのようなものだったのでしょうか。また、彼らは戦時下の社会でどのようにくらしていたのでしょうか。

この展覧会をとおして、戦争と平和について思いを深めていただければ幸いです。

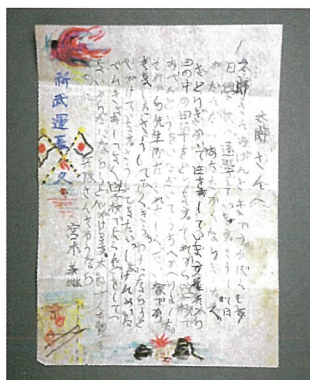
岡山空襲について

1944年から1945年にかけて、日本全土において市街地を対象とした大規模な空襲が米軍によって行われました。

岡山市の場合は1945年6月29日に大規模な空襲を受け、当時の市街地の63%を焼失し、少なくとも1737人*の死者が出ました。(*2000人をこえるという説もあります。)



「人絹道路を南福島方面に逃げる人々」
山本英子作 2018年



出征兵士への慰問文



岡山城改修時に出土した、焼け溶けた瓦の塊

記念イベント「証言を記録する現場から」

①空襲体験者へのインタビュー

語り手 岡山空襲体験者 聞き手 岡山空襲展示室学芸員

②講演「岡山市の戦争・戦災聴き取り調査について」

講師 木村崇史(岡山空襲展示室学芸員)

日時 2023年6月17日(土) 13時30分～15時30分

場所 岡山シティミュージアム4階講義室

定員 80名(先着順・事前申込不要)

【お問い合わせ】

岡山空襲展示室

TEL：086-253-7070

【会場のご案内】

岡山シティミュージアム

岡山市北区駅元町15-1

TEL：086-898-3000

JR岡山駅から東西連絡通路で直結

担当学芸員による展示解説

日時 毎週土曜日・日曜日 14時から(各回30分程度)

(6月17日(土)は実施しません)

場所 岡山シティミュージアム4階企画展示室(事前申込不要)

・新型コロナウイルス感染拡大およびその他の影響で、会期や内容等が変更になることがあります。

・最新情報は岡山シティミュージアムHPにてご確認ください。

(<https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/>)

